

発表テーマ：学生の自立支援に向けてわたしたち職員ができること

1. 大学の役割

大学の役割について、大学を取り巻く環境の変化や社会が大学に求めることを含めてそれぞれが意見を述べていったところ共通のキーワードとして「人材の育成」が挙げられた。大学側の理想は建学の精神にのっとりた人材の育成であり、社会が求めている人材はビジネスで活躍できる即戦力のある人材の育成であるが、その双方が求める「人材の育成」の役割として以下の3点が挙げられた。

【大学に求められる人材の育成の役割】

- ・グローバル人材の育成
- ・社会人基礎力の養成
- ・修学支援



教育・支援（自立支援）

大学から学生に対しての一方的な教育だけではなく、学生自らが自発的に学ぶ環境づくりの教育・支援が必要である。

2. 大学の現状

学生・教員・職員、それぞれの大学の現状についての問題点を話し合った。問題点として主に以下の意見が挙げられた。

【大学の現状の問題点】

学生	<ul style="list-style-type: none">・目的意識を持たずに大学に入学する学生の増加（社会的背景：大学全入時代）・堅実で高望みをしない学生（さとり世代）の増加・学生の受け身思考・修学意欲の低い学生の増加
教員	<ul style="list-style-type: none">・専門性のある教育の質的低下・教員と学生間のコミュニケーション不足・授業改善に対する意識の差
職員	<ul style="list-style-type: none">・言われたことだけをこなす職員と自発的に考えて行動する職員の意識格差・部署間、他部署の連携不足・一人ひとりのきめ細やかなサポート体制の欠如・縦割り組織の弊害

3. 問題点の深堀

教育・支援が不十分である原因として以下の2点が挙げられた。

①職員個人間での、意識の相違（モチベーションの相違）

②職員間でのスキルの違い

現状では職員間、部署間での業務知識、情報が共有できていない。十分な教育・支援には職員間で足並みをそろえる必要がある。

⇒学生の意識を変える前にまずは職員の意識を変える必要があり、そのためには「職員間の情報共有」が大事であるという結論に達した。

4. 解決策の検討

情報共有としての懇談の場を設けて、アウトプット型の研修を実施する。

ポイントとしては、実際の業務に結び付けることができる懇談会の実施、研修を行う。

①教職員全員参加の懇談会の実施

教員と職員との間での情報や意見交換の交流を設けることで、意識の共有が協力を生み、教職員間のコミュニケーションを円滑にする。

②研修テーマの事前アンケート実施

従来、研修参加は上長からの指示で参加しているが、それでは参加することが目的になってしまい、研修の本来の意味を成していないと考える。

どのような研修をしてほしいか、職員から事前に意見を吸い上げることで参加する意欲も高まり、実際の業務で必要なことを学ぶため、研修した内容を直接的に業務に生かすことができる。

5. まとめ

学生・教員・職員、各々の問題点を話し合う中で、学生の意識を変える前にまずは我々職員が変わるべきであり、わたしたち職員でできることは何かを考え、職員間の情報共有という結論に至った。

しかしながら、職員間の情報共有をすることでそれがどう学生の自立支援に繋がるのかまで議論できなかった。

普段関わることのない全国の大学職員の方と関わることで、それぞれの大学の一職員としてではなく、今後の日本社会を担う人材育成の一員であるということを改めて実感した。

学生の人材育成には、従来の大学の縦割り組織を改革し、教員と事務職員が協働して各所属の垣根を越えた職員間の情報共有が今後の課題である。